

本太中だより

第5号

令和8年26日

さいたま市立本太中学校

048 (886) 4305

<http://motobuto-j.saitama-city.ed.jp>

E-mail motobuto-j@saitama-city.ed.jp

「同じ」を見つけ、「違い」を認める
他者への理解と尊重を育む学校を目指して

校長 田中 一秀

今年の夏も暑く、そして熱い夏でした。報道では各地の厳しい暑さが伝えられ、新たな「酷暑日」という言葉を耳にする機会も増えました。そのような厳しい暑さの中でしたが、私にとっては生徒たちの頑張りが強く印象に残る熱い夏でもありました。私は可能な限り県大会やコンクールに足を運びました。そこで目にしたのは、勝利を喜ぶ姿だけでなく、敗れて涙する姿でした。その涙を見て、「これほどまでに何かに打ち込んだ経験が自分にもあったのだろうか」と考えさせられました。負けた悔しさの裏には、それだけ真剣に取り組み、努力を重ねてきた時間があります。勝って流す涙も、負けて流す涙も、全力で挑戦した人だけが流せるものです。生徒たちの真剣な姿から、私自身も大切なことを学んだ夏となりました。「自分もこんな経験してみたい」と思いました。

さて、先日読んだ本の以下の部分が印象に残りました。それは、「ヒトは脳が大きくなって、動物とは違う能力をもつようになりました。意識というはたらきです。意識はたぶん動物でももっていますが、ヒトの意識は『同じ』と『違う』を理解できます。」* というものです。私は、この文章を読んで、教育の本質にも通じる大切な視点が示されていると感じました。

私たちは、趣味や目標、笑い合えることなど、自分と相手との「同じ」を見つけることができます。そうした共通点は、人と人を結び付け、安心感や信頼感を生み出します。その一方で、考え方や感じ方、得意なことや苦手なことなど、自分と相手との「違い」も理解できます。そして、そもそも、人間は本来、それぞれ異なる存在です。

ところが、私たちは時に、「なぜ分かってくれないのだろう」「どうしてそんな行動をするのだろう」と感じる場面があります。自分と相手は同じように考えているはずだと思い込んでしまします。それは、自分とは異なる見方や価値観があることへの理解が十分ではないことから起こるのかもしれませんが。学校生活は、多様な他者と出会う場です。授業や学校行事、部活動、友人との関わりの中で、生徒たちはさまざまな考えや価値観に触れます。その中で大切なのは、自分の考えをしっかりとつことだけではなく、相手の立場に立って考えようとするということです。「この人はどんな気持ちなのだろう」「なぜそのように考えるのだろう」と想像しようとするということです。他者の心を完全に理解することはできません。しかし、理解しようと努めることはできます。その姿勢こそが、相手を尊重することにつながり、人間関係を豊かなものにしていきます。

これからの社会は、ますます多様な人々と協働していく時代です。だからこそ、「同じ」を見つけて人とつながる力と、「違う」を認めて尊重する力の両方が求められています。本校でも、生徒一人ひとりが互いの違いを認め合い、相手の思いや考えに耳を傾けることのできる人へと成長していけるよう、教育活動を進めてまいります。

学校教育は、教職員だけでなく、保護者や地域の皆様とともに築いていくものです。2学期も、子どもたちのよりよい成長のため、それぞれの立場から力を寄せ合いながら教育活動を進めてまいります。よろしくお願いいたします。